

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

Dogushi

洞串 -どぐし-

Summer 2015

Vol.10

特集

人形劇のまち飯田から発信！
飯田から始まるアートプロジェクト・市民がつくる人形劇



Chiyoko

Dogushi Vol.10 2015年7月発行 発行「人形劇のまち飯田」運営協議会
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL 055-0044 長野県飯田市中町1-2 TEL 055-583-3594 FAX 055-583-3594 E-mail: itida-puppet@misjans.or.jp

掲示板 いいた人形劇センターからのお知らせ

宇野小四郎氏を偲んで 人形劇フェスタで追悼公演

人形劇研究家の宇野小四郎さんが去る4月19日に逝去されました。

宇野さんは現在の「いいた人形劇フェスタ」の前身「人形劇カーニバル飯田」に大きく貢献され、また『Dogushi』創刊号より「臈 人形たちのカーニバル」の連載を執筆くださいました。

今年のいいた人形劇フェスタでは追悼公演として、宇野さん脚本による上演と、森元勝人氏、湯見英明氏、くすのき燕氏によるトークが開催されます。

また、飯田文化会館、飯田市民館に宇野さんの功績を記した資料・写真が展示されます。

[追悼公演]

デフ・パペット・シアター・ひとみ「一寸法師」
期日:8月7日(金)10:30
場所:飯田市民館4階

Dogushi



View of IIDA

いいた人形劇フェスタのマスコットキャラクター「ぼお」のあいぼう犬「プッチー」が車体に描かれた電動小型バス。時速15キロで飯田市の中心市街地をのんびり走ります。多い日には一日200人もの乗車があるほど。11月末まで土日祝日のみ運行。フェスタ期間中は毎日運行しており、だれでも無料で乗車できます。

人形劇 わかる!! 用語

「裏方／表方」

「今回は裏方に私は徹します！」なんて言っている人が、実は一番目立っているなんてこともあるけれど、「裏方」は舞台の引き幕から裏の、お客さまには見えないところで働く人たちのうち、役者以外の人たちのこと。つまりは、演出家、脚本家、舞台監督をは

じめ、美術、衣装、音楽、照明などの舞台スタッフのこと。職人気質の気難しい人も多いけど、「ザ・プロフェッショナル」という人が多いのも、この裏方さんたち。

逆にお客さまの目にふれるところ、お客さまに直接関わるところで働くような営業、宣伝、接客などを担うスタッフは「表方」といわれます。ですから、一般に言われる「裏方」の裏方は、むしろ表方の仕事が多いということになりますね。一般の仕事で、照明

並木 さんぽ

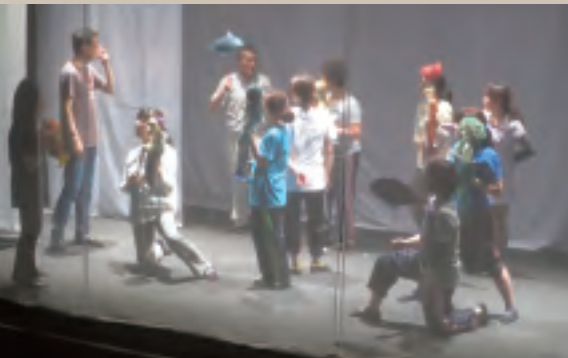
こま撮りの手法を使って「ふるさと飯田」のCMをつくるワークショップ「こま撮りアニメーションパーフェクトコース」。昨年8月の開始から1年をかけた大作が間もなく完成します。人形を動かしながら1カットずつ撮影する地道な作業が連日のように行われ、受講者の皆さんの熱意が半端でないことを日々実感しました。飯田の水引をテーマにした作品の完成をぜひ多くの方と楽しみたいと思います。上映会は8月23日(日)。撮影に使用した人形、部屋のセット、小道具なども展示しますので、ぜひご来場ください。

次号は2015年10月発行予定です。(帆)

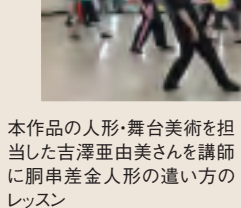
表紙イラスト:井原千代子



や脚本家などが必要なんてことは少ないですからね。
(人形芝居燕屋くすのき燕)



本作品の脚色・演出くすのき燕さん(写真左)に指導を受ける



本作品の人形・舞台美術を担当した吉澤亜由美さんを講師に胴串差金人形の遣い方のレッスン

わくわく イベントスケジュール

8 AUG **いいだ人形劇フェスタ2015**
 8月4日(火)～9日(日)「特集 愛知の人形劇」
 ・沢則行フィギュアアジアタ・デザインコース プレゼン&作品上演
 5日(水)・6日(木)12:00 会場/飯田文化会館ホール
 ・佐久間奏多VS沢則行トークライブ
 8日(土)20:45 会場/飯田市公民館4階
 ・いいだ人形劇センタープロデュース人形劇「人魚姫」
 9日(日)11:30-15:00 会場/飯田人形劇場
 料金/大人1,000円、子ども500円

.....

ふるさと飯田のCM映像&人形アニメーション『死者の書』上映会
 8月23日(日)13:30 会場/川本喜八郎人形美術館 料金/無料
 ふるさと飯田をPRしよう!「水引」をテーマにこま撮りで撮影したCM映像の完成上映。こま撮りの指導にあたり、川本喜八郎氏ともゆかりのあるアニメーター 峰岸裕和氏を迎えたスペシャルトークも。川本氏の命日である同日に、遺作となった長編人形アニメーションを特別上映

市民がつくる飯田発の人形劇「人魚姫」をフェスタで再演

2013年11月に始まったプロの演出家・美術家とともに本格的な人形劇作品「人魚姫」をつくるワークショップ。今年3月の初演後、これまでのようなワークショップの続きでなく、キャストや美術スタッフが自主的に取り組む市民主導にしていくと、4月から新たなスタートを切りました。

初演よりもレベルアップしたものにするには何が必要かを考え、身体訓練や人形の遣い方、台本の読み解きなどを繰り返す一方、稽古の進捗状況にあわせて演出家の指導を仰ぎます。リーダーの横田瑞枝さんはフェスタでの再演に向け「初演とは異なる緊張感があります。飯田の市民にもこのような作品が上演できることを、全国から来てくださる方々に観ていただきたい」と話してくれました。

いいだ人形劇センタープロデュース「人魚姫」
 8月9日(日)11:30-15:00
 会場/飯田人形劇場 料金/大人1,000円、子ども500円

特集 「人形劇のまち飯田、から発信！」 飯田から始まるアートプロジェクト・市民がつくる人形劇

いいだ人形劇センターと飯田文化会館が主催するワークショップから市民主導の人形劇作品が誕生し、これまでにないものをつくり出そうと豊かな発想を表現するアートプロジェクトが動き出しました。人形劇のまち飯田から、全国そして世界へ。魅力的な取り組みが発信されています。

飯田から始まるアートプロジェクト 舞台化第1作「おもちゃのお姫さま」

人形劇師・沢則行さんによる「フィギュアアジアタ・デザインコース」は飯田下伊那だけでなく長野県内、東京から19人が受講。今年1月の成果発表では17人がプランを提案しました。その中から今夏舞台化されるのが熊谷美香さん(高森町・主婦)の「おもちゃのお姫さま」。講師の沢則行さんは「絵コンテの色づかいが個性的で想像力豊か。春花ちゃんをキャストイングしたのがいい」と評価。春花ちゃん(1歳)を育てる熊谷さんにはできないプランが舞台化へつながりました。

現在は8月のいいだ人形劇フェスタ上演に向けて美術制作、稽古の日々。「娘が本番でどう動くか、私自身舞台の経験がないので不安。でもアイデアが一つ一つカタチになっていくことを楽しんでいきます」と熊谷さん。母娘共演の舞台に期待が高まります。



「おもちゃのお姫さま」原作は19世紀のイギリス童話。礼儀正しい国の国民が人間か人形か、どちらのお姫さまを選ぶかというストーリー。熊谷さんの娘・春花ちゃんが人間のお姫さま役で登場。同デザインコースの受講者が出演・美術制作をサポート

フィギュアアジアタ・デザインコース プレゼンテーション&作品上演

8/5(水)・6(木)
 12:00~プレゼンテーション、13:30~作品上演
 会場/飯田文化会館ホール 料金/無料
 1月のプレゼンテーション後、さらにプランを練った11人が登場。想像をかきたてる内容の連続間違いなし。必見です。

※プレゼンタ.上演作品など詳細はいいだ人形劇センターのウェブサイト <http://www.iidapapacen.com>をご覧ください



春花ちゃんをおんぶして美術制作をする熊谷さん



6月中旬の稽古風景。場面設定について講師の沢さんと意見を交わす熊谷さん

2015秋始動! 巨大人形オペラを一緒につくろう!!

沢則行さんを監督に迎え、フィギュアアジアタ・デザインコースで提案されたプランの中から「おもちゃのお姫さま」に続く2作目を制作します。作品は南信州を舞台にした屋外型巨大人形オペラ。人形や衣装などものづくりに興味がある方、ダンス・スポーツ・楽器の演奏が得意な方を募集中です。第一次募集は9月18日まで。

■問合せ/TEL.050-3583-3594いいだ人形劇センター



※開催日時など変更になる場合があります。詳細はいいだ人形劇センターTEL.050-3583-3594へ

いい大人形劇フェスタ 2015 企画展

「戦争と人形劇、その時代— 戦後70年に人形劇はどう向き合えるのか」

8月5日(水)~9月上旬 会場／川本喜八郎人形美術館交流ゾーン 観覧自由・無料



国策人形劇普及活動における公演風景
（『演劇の作り方』より）

戦後70年を迎える本年、いい大人形劇センターは「人形劇の図書館」（滋賀県）の蔵書をもとに「戦争と人形劇」について考える資料展示とパネルディスカッションを行います。当時の様子を知ることができる貴重な資料から、現代の人形劇のあり方を一緒に考えましょう。

先の戦争では、婦人子どもをも戦争に駆り立てるために、人形劇はまさしく国策人形劇と位置付けられました。大政翼賛会が1943年「人形劇研究委員会」を組織し「国策」として取組んだのですが、それはまだ現代人形劇が誕生して20年足らずのころで、人形劇が確立した存在ではなく、またすすんで協力する専門家も少なく、ナチス・ヒトラーの実践を単に模倣しただけの組織は実践者不在の頭でっかちなものでした。

しかし、国策の威力は資材統制のなかでの盛んな出版に顕著で、現代人形劇、伝統人形芝居の分野で普及本から理論研究本まで少なからぬ出版がおこなわれます。そうした出版物はほとんど知られていないままですが、人形劇の図書館の貴重な蔵書を展示し、この戦後70年の年のいい大人形劇フェスタならではの企画として、戦争と人形劇について知ってもらおうにふさわしいものだと思います。（企画・人形劇の図書館）

パネルディスカッション 「戦後70年 人形劇はどう歩んできたのか」

8月8日(土) 14:00 会場／飯田信用金庫本店大会議室
聴講自由・無料（いい大人形劇フェスタのワッペンが必要です）

焦土の中から子どもたちの心を救おうと人形劇に取り組んできた先人たちの思いを振り返り、今後の歩みについて考えます。

- パネリスト 加藤 暁子氏（人形劇研究家）
 湯見 英明氏（人形劇の図書館館長）
 森本真也子氏（子ども文化全国フォーラム代表）
- コーディネーター 高松 和子（いい大人形劇センター理事長）



大政翼賛会が発行した書籍

Library Cafe 飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑩

『人形劇運動』 園池公功・伊藤憲朔・他監修 1943年4月 中川書房

ナチスの実践を真似た「人形劇研究委員会」なるものが大政翼賛会に組織され、まさしく「国策人形劇」として人形劇が戦争に駆立てられた、その理論書とされる象徴的な表紙の1冊。「仲よし」のルーツとなる講習会や、現代人形劇誕生（大正末期）のエピソードなども記されている。発行部数1500部。紙や資材統制の中で国策人形劇出版物があり普及本には発行3万部というもの。こうした出版物から戦争と人形劇について見えてくるものがある。戦後70年、いま人形劇はどのように戦争に立向かえるのか、あらためて考えなければならないのではないだろうか。

（人形劇の図書館館長・湯見英明）



通して上演をした後、人形の目線や動作、場面転換など細かい部分の演出を指導する講師の吉澤亜由美さん(写真左から2人目)

突撃!!

人形劇の ゲンバ Part10

いい大人形劇フェスタに向けて人形劇をつづけている皆さんを対象にした「人形劇の相談所」が開設されているとの情報をキャッチ。さうそくゲンバをおさえるべく、直行しました！

5月下旬から7月上旬まで開設された「人形劇の相談所」。飯田市内の小中学校で人形劇に取り組む担当の先生や市民のアマチュア劇団など、さまざまな相談事を持って訪れました。

台本は決まったけれどその次は何をしたらいいの？人形のデザイン画は描いたけれど人形はどうやって作るの？どんな材料を使ったらいいの？今使っている人形を遣いやすくするには？表現したいことを伝える演出にするには？

悩みのあれこれを解決

今回は「人形劇の相談所」はいい大人形劇フェスタでの上演を目指す方たち向けの開設でしたが、秋以降は随時開設予定とのこと。吉澤亜由美さんの指導はもちろん、人形劇の制作に必要なウレタンや布のほか、個人では手に入りにくい材料の販売も、問合せはいい大人形劇センターへ。

「面白作品になる」と話します。

今回の「人形劇の相談所」はいい大人形劇フェスタでの上演を目指す方たち向けの開設でしたが、秋以降は随時開設予定とのこと。吉澤亜由美さんの指導はもちろん、人形劇の制作に必要なウレタンや布のほか、個人では手に入りにくい材料の販売も、問合せはいい大人形劇センターへ。



人形の完成後、十二単の衣装の作り方や着付についての相談



飯田市内の小学校で人形劇に取り組む担当の先生が、子どもたちが描いたデザイン画を持参。材料の選び方、つくり方を相談



飯田市内の幼稚園に子どもが通うお母さんたちの劇団が、以前作った人形を遣いやすく改造したいと相談



いいだ再発見

「ぼお お菓子になる」の巻

いいだ人形劇フェスタのマスコットキャラクター「ぼお」がお菓子になっているをご存じですか。「ぼお」がりんご並木の妖精であることから、地元産のりんごを使用したり、愛らしい姿を模したり。飯田市内の菓子店が工夫を凝らしたお菓子はおみやげに最適です。



■ぼおのアートクッキー 1枚250円(税別)

さっくりと焼き上げたプレーンクッキーにアイシングをしてイラストをプリント。ちょっと大きめサイズが「ぼお」のようがかわいらしい。限定数の販売なので早めにチェック。マロン追手町店 ※7月末～8月中旬販売



■りんごきんつば 1個150円(税別)

北海道十勝産の小豆と地元産のふじを合わせたきんつば。よく見ると「ぼお」の焼印が押されている。「ぼお」の作者・井原千代子さんによるパッケージデザインも人気のポイント。田月 ※通年販売



■ぼおまんじゅう 1個180円(税込)

黄身あんとしなモン風味のりんごを包んだ焼きまんじゅう。目や鼻を一つ一つ手で描くため、ちょっとずつ表情が違うのもご愛嬌。冷やすとりんごの酸味が際立ち、暑い夏におススメ。一不二 ※通年販売



■ぼお 1個380円(税別)

ヨーグルトムースの中に青りんごジュレとりんごのプレザーブをしのばせ、ホワイトチョコのムースでコーティング。一つずつ表情を手描ぎしたキャラチョコとサクランボをのせたら、まるで「ぼお」。ひとつぶの麦 ※6月上旬～8月末販売

かざこしのはな

いいだ人形劇フェスタの期間中、多くの人が立ち寄る休憩処おいなんよサロンを切り盛りする飯田市連合婦人会の皆さんで構成する「かざこしのはな」。平成10年に旗揚げし、飯田市公民館2階のおいなんよサロンで期間中毎日、正午から10分間の上演を続けてきました。しかし、高齢化に伴うメンバーの減少から2年前に



3年ぶりにいいだ人形劇フェスタで上演する「かざこしのはな」塩澤登喜子さん(写真左)と塩澤美登里さん。かざこしのはな復活のきっかけをつくった九州の「人形劇団のはな」納富俊郎さん(写真中央)

やむなく劇団の活動を休止してしまいました。そんな状況を聞き、8年ほど前から同じ劇団名であることから交流を深めていた九州の「人形劇団のはな」の納富俊郎さんが、「今年と一緒に上演しよう」と紙コップを使った「コップンシアター」を考案し、メンバーの塩澤美登里さん、塩澤登喜子さんの2人に作り方と上演方法を伝授。3年ぶりにフェスタで上演することになりました。「今年上演がないの？と声をかけてくれる方もいてさみしい思いをしとった。いろんな方との交流が今回のような公演につながって本当にありがたい」と話す塩澤美登里さん、塩澤登喜子さん。操作のコツを掴もうと、練習を繰り返すお二人。本番まで熱の入った練習が続きます。



4コマ漫画の要素を取り入れた紙芝居仕立ての「コップンシアター」。納富さんから作り方や操作の指導を受けます

日本ウニマ通信

世界みてある記 ④

日本ウニマ事務局 ● 松澤文字

リトル・エンジェル・シアター Little Angel Theatre

イギリスのリトル・エンジェル・シアターは、故ジョン・ライト氏(John Wright)が創立した、糸操り人形を中心とした、ヨーロッパでは大変有名な人形劇団です。ライト氏ご夫妻の穏やかなお人柄と上品な人形、丁寧な舞台づくりで、私にとっても特別な劇団でした。その劇団がロンドンに劇場を持つていると聞いて訪ねたのは、もうずいぶん前です。ロンドンの中心地からそれほど離れていない住宅街の一角の、緑に囲まれた劇場でした。劇場のオーブンは1961年11月、客席100席、ベンチシートのかわいい劇場で、新宿のブーク人形劇場によく似ています。私が訪ねたのは平日の午後でしたが、近所の子どもたちでしょうか、そんなに多くない子どもお客さんがいて、和やかな上演でした。近所にこんな素敵な人形劇場があったらいいなと、とてもうらやましかったことを覚えています。

1991年に創立者のジョン・ライト氏は逝去されましたが、その後も劇団は活発に活動を続けられ、2011年に創立50周年を迎えて、盛大なお祝いをしたそうです。

現在は糸操り人形だけに留まらず、新しい表現手段を積極的に取り入れて、イギリスの人形劇の中心になっています。昨年にはスタジオもオープンしたとありました。ロンドンに行かれた折には是非、訪ねてみてください。
<http://www.littleangeltheatre.com/ja/>

シアター内の様子



リトル・エンジェル・シアターの建物外観

©Little Angel Theatre